

どうぶつの飼育舎を考えよう

理想の飼育舎

動物を健やかに飼育するには、快適な環境を整えることが必要です。また子どもたちにとって動物の餌やりや掃除がしやすく、ふれ合いの機会をもてる飼育舎が理想的です。いつも子どもたちの笑顔があふれる飼育舎を目指しましょう！

屋外の飼育舎

■ 特徴

屋外の飼育舎は、広いスペースを取ることができて、全校の子どもたちが動物とふれ合うことができます。その反面、維持管理にコストがかかり、厳しい暑さ寒さに対する配慮が求められます。

■ 理想の屋外飼育舎とは

【設置場所】

- 子どもたちの遊び場か、校舎への出入り口付近など、子どもたちが立ち寄りやすい場所に設置します。

- 暑さ寒さを防ぐためには大きな落葉樹のそばに設置するのが理想です。夏は木陰になって涼しく、冬は落葉して日中は陽が当たり暖かいです。

- 給水・掃除のために水道が近くにあることが条件です。汚水を流すための排水溝も必要です。



大きな落葉樹のそばに設置され、子どもたちが集まりやすい飼育舎(尾張旭市立瑞鳳小学校)

【構造】

居室

過繁殖やけんかを避ける場合や、異なる動物種を飼育する場合には2部屋以上必要です。動物が交わらないように、それぞれの部屋に扉を設け、扉と扉の間に前室をつくり、餌・掃除用具などの物置として利用します。

既存の施設を利用する場合は、市販の犬小屋やサークルを部屋内に設置して部屋割りすることも可能です。ニワトリ飼育の場合、居室内に腰の高さくらいの止まり木をつくりましょう。

屋根

夏に動物が熱中症にならないように断熱効果がある建材を使います。また冬は日差しを確保できて、雨の降り込みを防ぐことができるように軒の長さを工夫します。雨だれによる水の流入を防ぐために樋もつけましょう。